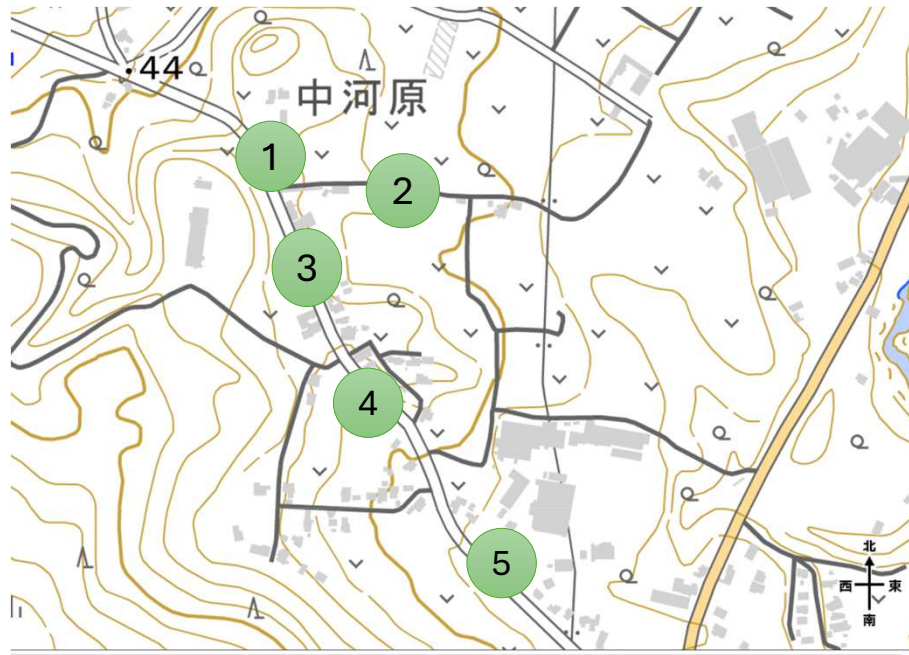


都農町地域資源マップ 6班



1

道路の穴



地域の福祉バス停付近の道路に、遠くからでも目立つ大きな穴や亀裂が発生しており、老朽化が進んでいることが確認できる。バイクの転倒事故や、今後歩道へ被害が広がり住民が歩く危険性がある。住民の安心・安全な暮らしを守るため、早期の修繕・改善が必要だと考えられる。(横山)

2

畑



都農町ではみかんやミニトマトなど多くの作物の畑を見かけた。地元民の女性にいただいたミニトマトは、甘味と酸味のバランスが良くとてもおいしかった。都農町の潮風が吹き抜け、温暖な気候はみかんやミニトマトを始め多くの作物を育てるのに適していると感じた。(押川)

3

グリーンバイオマスファクトリー



山間未利用材を原料にした木質チップを使用してバイオマス発電を行う。山間未利用材有効活用する事で、資源の循環・自然の循環に大きく貢献でき、これにより林業の活性化、地域の産業と雇用の創出を導き、自然循環や社会循環という効果が生み出される。年間で約4000万Kwh、約一万世帯分の電気を生み出している。発電された電気は都農町に還元されるのではなく、九州電力へ送電される。

4

地域福祉バス



1人1回当たり200円、まちなか周回線を利用する際、小学生以下や障がい者手帳保持者は100円で利用できる。運転免許返納者は無料乗車券が交付される。しかし、令和8年4月から一部定時路線を除いて事前に予約が必要になった。また、バスの運行を廃止する話も出ているため、免許返納が難しくなり、住民から不安の声が上がっている。(小牧)

5

ソーラーパネル

道を歩いているとソーラーパネルを多く見かけた。ここでの発電量は1002.24kWで約1,500~3,000世帯分の、同時使用電力に相当する。エネルギー問題や地球環境問題に対応するために、太陽光発電の導入拡大を基本に、地域づくりや産業集積にも取り組む「みやざきソーラーフロンティア構想」の取り組みの一つとして都農太陽光発電所をつくることによって都農町では環境保全と調和した再生可能エネルギー活用が進められている。



まとめ

フィールドワークで訪れた都農町では、地域の人々が温かく親しみやすい雰囲気、住民同士のつながりの強さを感じた。町内には広い農地が広がり、みかんやミニトマトなど様々な作物の農業が盛んに行われており、地域経済を支える重要な産業となっている。また、再生可能エネルギーの活用にも力を入れており、各地でソーラーパネルを見かけた。さらに、木質資源などを活用するバイオマス関連施設の取り組みからは、環境に配慮しながら地域資源を有効活用しようとする姿勢がうかがえた。農業と環境対策を両立させながら持続可能なまちづくりを進めている町だと感じた。